

2015 世界核被害者フォーラム・プレ企画



講演テーマ

「福島原発事故から4年 ～核による非人道的被害を問う～」

講演 小出 裕章さん (京都大学原子炉実験所助教)

「無惨としか言いようがない現実がある あったことを終ったことにするつもりか あったことをなかったことにするつもりか おなじことをくりかえすために いまあることをなかったことにできるのか」—福島第1原発から25kmの地に住む詩人若松丈太郎さんの最新作の一節です。事故から3年半、今も放射能の放出と汚染水の流出が止まらず、福島県民の12万5千人が避難生活を強いられ、原発事故関連死者数が震災の直接死者数を超えて増え続けています。そうした中で進められる原発の再稼働や海外への輸出策—詩人の思いに共感する人が多いのではないのでしょうか。

2015年、広島、長崎への原爆投下から70年を迎えます。東西冷戦の終結から四半世紀近い今も米口を中心に世界に1万発を超える核兵器が使用可能状態にあり、人類の生存を脅かしています。高齢化した被爆者に残された時間が限られる中、全人類的課題である核兵器廃絶の道筋をどう切り拓いていくかが問われています。

研究者として半世紀近く核問題に取り組んで来られた小出裕章さんは「核と原子力は同じものであり、原子力発電を進めながら核兵器廃絶はできない。核兵器をなくすためには世界中の核の被害者と手をつなぐ必要がある」と訴えてこられました。核兵器も原発も工程は同じであり、ウランの採掘から、精錬、濃縮、原発運転、再処理=プルトニウム(兵器・核燃料両用)製造、核実験、劣化ウラン兵器製造・使用、核廃棄物処分までのすべての過程で放射能汚染と被曝が避けられません。

被爆70年を迎えるにあたり、核のない世界をどう実現するか、小出さんとともに考えましょう。

日程 2015年 3月 8日 (日)

時間 午後1時半～4時半
開場: 午後1時

場所 世界平和記念聖堂
広島市中区幟町4

参加費 500円



小出 裕章 こいでひろあき

1949年東京生まれ。
東北大学工学部原子核工学科卒、同大学院修了。京都大学原子炉実験所助教。
専門は放射線計測、原子力安全。
学生時代に東北電力女川原発反対集会に参加してから反原発の道を歩む。
伊方原発訴訟住民側証人。
著書に「原子力のウソ」(2011年扶養社)「隠される原子力 核の真実」(2010年創史社)、「原子力と共存できるか」(共著、1997年かもがわ出版)など多数。

主催：世界核被害者フォーラム実行委員会

事務局 〒731-5135 広島市佐伯区海老園 3-2-18 NO DU ヒロシマ・プロジェクト気付
TEL/FAX 082-921-1263 携帯 090-9064-4705 (事務局長 森瀧春子)